

広報たかもり

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②1111 [代表]

人口

— 8月31日現在 —

9,040人 男 4,386人 女 4,654人
世帯数 2,589
転入 35 出生 13
転出 70 死亡 8



青刈りトウモロコシの刈り取り

収穫の秋、農家にとっては、稲刈り、刈り干し切りなどと共に大事な、青刈りトウモロコシの刈り取り。役場近くの松尾敏幸さん（高森・上在）の畑でも、近所の人の応援を受けて朝早くから刈り取りが行われました。刈り取ったトウモロコシは、カッターで小さく刻んで、トラクターやトラックで運搬、畜舎そばのサイロに詰めて保存し、長い冬の間の牛の飼料となります。

第302号 10月 昭和59年

おもな内容

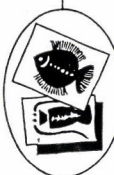
- 高森線存続のため基金募集.....(2)
- 新しい焼却場建設始まる.....(3)
- 待望の山村広場が完成.....(4)
- 草部地区にもグラウンド.....(5)
- 親子で交通安全教室（ひまわりクラブ）.....(6)
- 中央公民館だより（偉大なる国・中国）.....(7)
- みんなの広場（ガンに勝った喜び）.....(9)

火事・救急車は	11月4日	11月3日	10月28日	10月21日	10月14日	10月10日	10月7日
富平	富小	富立	富後	富渡	富立	富寺	
②田	②林	⑧野	⑦藤	⑦辺	⑧野	②崎	
0216	0075	0011	0019	0177	0111	0378	
院	院	院	院	院	院	院	

休
在
日
宅
医

診療は午前9時から午後5時まで

町民文芸



肥後狂句

内緒 先の知れとる生命でも
お袋の味 吾が家の絆育てたつ
もう秋風 古本屋でんあせろうか
経済的 媽ア一人で済ませざる
内緒 テレビじゃ声は変えてくれ
もう秋風 肌の手入れも一と仕事
やれやれ 小もうなる汽車見送って
もう秋風 ベンチの恋のくしやみする
お袋の味 寄宿舎出ろう如つなつた

俳句

かなかなの夕鳴く頃と約束し
星屑やキャベツの村は寝しすまり
すいっちょや障子の陰より声流る
夕立が来るか高岳雲を呼ぶ
秋時雨軒人形の甲斐も無く
秋なすび味をたもつとあわす
陽を浴びてなほも華やぐ彼岸花
遠来の孫と積木の夕涼し
裏庭の手入れも楽し虫の声
山水の豊かな暮し芋洗ふ

石田 詩朗
松野 笑声
山村 不覚
馬原 馬笑
林田 一声
篠田 凡才
岡本 不忘
浦塚 琴司
南天

阿部 タツエ
後藤 やよい
本田 訓子
白石 政憲
森 正六
後藤 固
後藤 法龍
後藤 春嵐
熊谷 紫雲
野尻 決

おめでた おくやみ

S59. 8. 1 ~ 8. 31 受付

【出生】	（住所）	（保護者）	（出生児）	（性別）	（出生日）
旭通	藤山	正弘	泉	女	7.25
上在	上村	和博	史典	男	7.29
昭留	瀬井	幸一	貴典	〃	7.31
津山	津留	利秋	龍太郎	〃	7.31
旭通	工藤	良市	新喜子	女	8.2
昭留	岩下	公治	新紘子	女	8.19
下町	山部	至	さおり	〃	8.19
菅山	小篠	春次	勇一	男	8.19
草部	工藤	英雄	祐季	〃	7.25
〃	阿南	則一	雄大	〃	7.28
河原	中嶋	邦廣	愛	女	8.20
津留	後藤	孝市	郁江	〃	7.24
	松本	積男	憲二	男	7.25

【死亡】	（住所）	（遺族）	（続柄）	（死亡者）	（年齢）	（死亡日）
洗川	後藤	恵男	祖母	後藤アサト	92	8.13
森	本田	マシエ	夫	本田 美光	75	8.27
草部	佐藤	ユクエ	夫	佐藤 重亀	78	8.4
芹口	佐藤	勲	母	佐藤 ソエ	81	8.4
津留	小倉	貴好	長男	小倉 智幸	13	8.4
〃	赤星	貞雄	養母	赤星 チヨ	76	8.16
尾下	甲斐	秀次	母	甲斐 マサエ	86	8.21

取材に伺います

「広報たかもり」に対する意見、提言、こうしたらよいのに、というようなアイデアをお寄せください。また、身近な出来事や話題も企画課広報統計係までお知らせください。取材に伺います。

老人クラブ

▽肥後銀行高森支店から、夜のチャリティセールの上金
▽尾下・下山の甲斐秀次さんから「はまご会」へ
▽津留・永野の岩佐幸男さんから「あけぼの会」へ

ありがとうございます

◎社会福祉協議会
△香典返し△
▽中・峰の宿の二子石高さんから（叔父、兄玉武朝さん・85歳死去）
▽河原・味鳥の後藤通さんから（父、一馬さん・92歳死去）
△一般寄付△
▽南阿蘇美容組合から、チャリティ・カットの収益金の一部

高森線存続のため基金募集

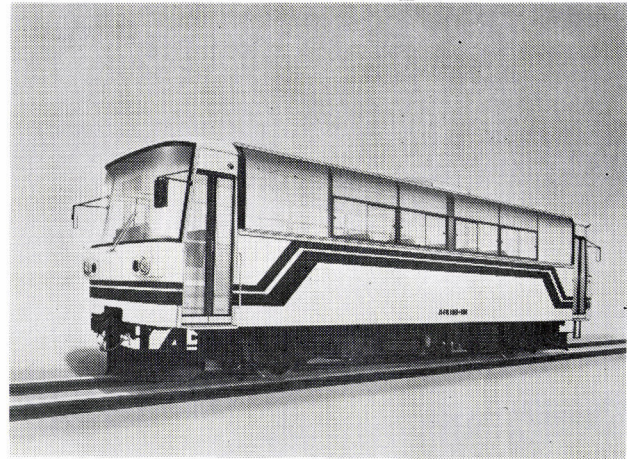
第三セクターに備える

目標額は五千万円

第三セクターかバス転換かの選択を迫られている高森線ですが、南阿蘇六カ町村は第三セクターに

よる存続を決議しています。

第三セクターに転換した場合は、転換交付金の一部を基金として積み立て、利息は赤字補てんに充てるよう計画、また八月二十七日に開かれた「高森線存続・高千穂新線建設促進総決起大会」で「地域住民による出資」の提案が採択されています。



導入が計画されているレールバス

高森線の必要性 足で感じよう

青年団がナイトハイク

高森町青年団（林淳一会長）は九月二十二日恒例のナイトハイクを行いました。

「高森線がいかに必要かを自分の足で感じよう」と計画されたもので今年で五年目。最年少の小学

五年生、女子中学生二人など一般参加を含む約五十人が駅前広場に集合しました。

午後五時五十分、高森駅発の列車に乗り込んだ参加者は午後八時四十分阿蘇駅前を元気にスタ

の国熊本」と「緑と太陽の国宮崎」を結ぶ夢のかけ橋、高千穂新線の建設には不可欠な路線でもあります。

第三セクターに転換した場合、転換交付金として、五億三千万円が交付される予定です。その内から約三億円を運営のための基金として積み立て、利息を赤字の補てんにあてる予定ですが、運営者の増加を図るとともに、少しでも多くの基金を積み立てる必要があります。このため住民の皆さんにご協力をお願いします。

一、基金目標口数 一万口
二、基金目標額 五千万円
三、一口の金額 五千円
四、申し込み方法 申し込み書による申し込み
五、申し込み先 役場町民課

ト、阿蘇駅前―赤水―立野―長陽―白水―村山公民館の間三十三キロのコースを、ゴールをめざして歩きました。

午前二時五十四分、トップでゴールインしたのは女子中学生、約一時間遅れて午前四時五分には一人の落後者も全員無事に到着しました。青年団では、年々一般の参加者も増えており、定着した行事として今後も続けたいと言っています。

て記念すべき日です。長い長い本当に苦しい一日でしたが手術は大成功でした。

「新年は自宅」と思っていたのですが、大みそかの夜に遠い阿蘇から来てくれた二人の子供と寂しく入院室で新年を迎えました。

手術後一カ月で大学病院を退院、地元で主治医のもとに入院しましたがこも約二カ月で退院しました。退院後も「私はガンではなかったか」という疑問は残り、不安な日々でしたが、余りにも経過がよく、五年たったころはこの疑いも自然に晴れるようになりました。

手術後六年過ぎた五十七年九月にM先生から「ガン征圧月間のPRに協力してほしい」との話があり、このとき初めて私は「ガン」であったことを知らされましたが、「長い間だましてごめんささい。もう六年過ぎて永久治療だから心配いりません」ということばに改めて感動しました。

十年前の腹痛のとき主治医に出会わなかったら、二度の集団検診がなかったら、恐らく今日の私はなかったでしょう。無理に検診に連れていったくれた主人、手術してくださった先生方、そして温かく看護してくださった皆さんに改めて深く感謝します。九死に一生を得た今、本当に幸せです。「生きていてよかった」、命の貴さと生きている喜びを痛切に感じます。

医学が高度に発達した文明社会で、「ガン」がまだ征圧されないという事実の中で、国民一人ひとりがもっと積極的にガン征圧の意識を高めることによって、一人でも多くの人が「ガン」から救われ、それがガン撲滅への近道となるのではないのでしょうか。

盗犯捜査にご協力を

高森警察署

警察では十月を特に盗犯捜査強化月間に指定し、泥棒の逮捕に力を入れています。高森警察署管内の盗犯発生は九月末現在で約五十件、このうち本町内では十四件が発生しています。泥棒を早く捕えるために、現

場には手を触れず、そのままにしておいて、事件の発生を見たり聞いたりしたときも、すぐ一〇番してください。連絡が早く警察官の到着が早いほど、犯人の検挙も早くなります。

▽ ちょっとでも家を留守にするとときは、必ずカギをかけ、お隣りに「ひと声」かけましょう。

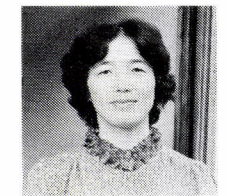
▽ おやすみ前には、戸締まりをもう一度確かめましょう。現金は一カ所に置かず、預金通帳と印鑑は別々に保管しておきましょう。明るく住みよい社会を作るため皆さんのご協力をお願いします。



全国ガン征圧大会・体験発表

ガンに勝った喜び

矢津田・柳谷 本田 タカ子



私は八年前の五十二年十二月胃ガンの摘出手術を受けて現在に至っています。

それまでは病院にかかることもなく、いたって健康でした。四十九年夏ごろから脇腹にときどき激痛を覚えるようになり、地元二、三の医院で診察を受けましたが、はっきり病名をつけてもらえないうちに一年近く過ぎてしまいました。五十年の八月に主人

の勧めで胃の集団検診を受けました。封書を受け取り驚きました。「まさか私がガンなど」とそんなよいな想像が頭の中を駆けめぐり、主人に慰められながら、熊本市内の病院で精密検査を受けました。が、そのときは手術するまでもないという結果でした。そのころは激痛もほとんどなくなり、健康回復かと思っていました。五十一の夏の夏に再び集団検診車が来る時期になり、主人に無理やり勧められて検診を受けました。自覚症状もなく安心していたやさきにまた

お知らせのページ

社会保険出張 相談所を開設

熊本東社会保険事務所では、社会保険についての出張相談所を開きます。専門の相談員が、厚生年金、船員保険、国民年金、健康保険について相談を受けます。お気軽においでください。

●期日 十月二十二日 十一月十六日 十二月二十日
●時間 午前十時から午後三時まで
●場所 高森町役場第一会議室(二階)

読書感想文コンクール作品募集

県立図書館

県立図書館では、第三十八回読書週間行事の一つとして、今年も読書感想文を募集します。
●応募資格 県内に居住する一般社会人及び大学生
●内容 とりあげる本の題、内容など自由ですが、未発表の作品であること
●字数 二千字(四百字詰原稿用紙五枚)以内とし、別紙に氏名

今月の支払日

町役場の支払日は、事務整理の都合上、勝手ながら五のつく日に定めています。ただし、当日が土・日・祭日にある場合は翌平日になります。支払時間は午前九時から午後三時まで。

(ふりがな)、現住所、電話番号、年齢、職業(学校名)、本の書名、著者、訳者、発行所を書いてください。
●締め切り 十月二十五日(当日消印有効)

●作品の送り先 〒860 熊本市千葉城町二一十六 熊本県立図書館 企画広報係(☎096-355-6266)

11月15日に人権相談所を開設

わたしたちの周りには、障害者・同和問題をはじめ、人間関係をめぐるさまざまな問題が起きている。人権問題でお困りの方は、次のとおり相談所を開設しますのでお気軽にご相談ください。

緑の作文コンクール作品募集

全国植樹祭

県では六十年五月に阿蘇で開かれる全国植樹祭の記念行事「緑の作文コンクール」の作品を次の要領で募集しています。
●課題 緑に関することとし、特に題は特定しません(緑を守り育てる林業や農業のこと、身近



大きく実れくまもとの幸
ごらんください、
農林水産業の「いま」
そして「未来」を。

■主催 くまもと'84 農林水産博
実行委員会

くまもと'84 農林水産博

■会期/11月10日⑤・11日⑥・12日⑦
■会場 熊本城二の丸催し広場・上通り・下通り
サンロード新市街・鶴屋・ニュースカイ

■技術館/生産性の向上に役立つ先端技術の紹介
■プロムナード/熊本の日本一・特産品ほか
■フォーラム/世界の青年と語るほか

●賞 賞状及び賞品
●賞 賞状及び賞品
●賞 賞状及び賞品

木材共販市況

9/14市況		高森町森林組合	
スギ	ヒノキ	安値	高値
長さ 径 級			
4 m 7~13cm		13,000	22,500
14~22		21,500	25,600
24~28		24,000	30,000
30以上		26,450	34,000
3 m 7~12		13,900	18,000
13~18		17,000	25,500
20~28		23,000	29,000
30以上		28,000	43,300
2 m 7~14		6,500	10,600
16~28		11,000	19,500
4 m 11~13		23,000	31,000
14~22		27,000	39,000
3 m 13~18		27,500	33,000

今回は小丸太、中目とも2,000~3,000円の高値となりました。今後も保合及び高値が続くと思われます。多数の出荷をお願いします。

無料法律相談

日時 十月二十七日(土) 午後一時から
場所 高森町中央公民館(旧町民センター)

間伐に補助金

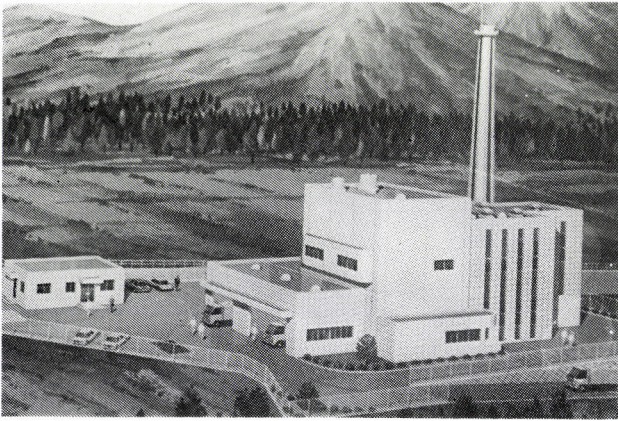
高森町森林組合

優良材を生産するためには、適切な間伐が必要です。組合員が間伐をしたとき、また間伐の計画があるときは地名と地番を調べて森林組合に申請してください。補助金制度が適用されます。詳しくは高森町森林組合(☎2-0769)にお問い合わせください。

新しい焼却場建設始まる

高森町外三力村清掃組合

1日に22トンのゴミを処理



新しいごみ焼却場の完成予想図

高森町外三力村清掃組合(組合長瀬井町長 高森町、白水村、久木野村、長陽村)の新しいごみ焼

却場の建設が始まりました。現在の焼却場は十四年前に建設されたもので、老朽化が進んでい

使用済み水銀乾電池の回収にご協力を

心配される環境汚染

水銀乾電池による環境汚染が心配されています。従来から、使用済みの乾電池は、主にゴミとして収集され、不燃物として埋め立てられるか、可燃物といっしょに焼

却処分されているため、土壌や大気への汚染が懸念されます。環境保全上、特に問題になっているのは、腕時計、計算機、ゲームウォッチ、カメラなどに使われている

ボタン型水銀乾電池です。この電池、普通の乾電池に比べると小型ですが、含まれている水銀の量は約一ヶ、筒型のマンガン電池の二百倍以上といわれています。このため、メーカー団体の「日本電池・器具工業会」では、使用

済みのボタン型乾電池を、電気店、カメラ小売店、時計小売店などを通じて回収しています。皆さんは水銀汚染による「水俣病」のおそろしさはよく存じと思います。水銀による環境汚染、公害を防止するためにも、使用済みボタン型水銀乾電池の回収にご協力ください。

今年もトウキビ列車 五百人が高森の秋を楽しむ

高森線存続を訴える、熊飽地区勤労者協会(石橋光俊会長)は今年も「トウキビ列車」を運行、家族連れなど約五百人が参加し、阿蘇の秋を楽しみました。

この列車は、同協会が三年前に始めたもので、今年も午前九時四十分、四両編成の臨時列車が熊本駅を出発、午前十一時十分高森駅に到着しました。

駅前広場では、山村議長が「阿蘇南部六カ町村は高森線存続を訴えています。南郷谷は人間味豊かで、景観も素晴らしいところですから。今日一日高森の秋を楽しんでください。」と歓迎の言葉を述べ、これに対し参加した武蔵小学校五年生のチビッ子が「いつまでもトウキビ列車ができるよう汽車が走っているといいな」とあいさつしました。



列車を降りる参加者



万里の長城に立つ甲斐さん

私は今回の「日中友好九州青年の船」によって、自分なりにいろんなことを学び、考えさせられました。早朝から夜まで続く研修、その中で規律ある生活、互いに助け合う仲間たち、それらが一つの「和」となっている感じが切っても切れないものになっていくのですね。

論、時には爆笑を誘うジョークが飛び交う中、私たちは二週間を過ごしてきました。一つの「船」という走っても、歩いても逃げることもできない運命共同体の中での規律ある生活が、苦しくもあり楽しいものでもありました。

早朝からの集い、見渡す限り遠々と続く海と空、そしてどこまでも新鮮な空気を思いっきり吸ってのラジオ体操、先生の話を聞いて心が引き締まり、一日が始まります。それから班別研修、テーマ別研修など、ギッシリ詰まったスケジュールを消化していきます。そんな中での各団

偉大なる国・中国

津留・下町 甲斐 耕太郎

中央公民館だより

体のリーダーである仲間たちは色々な悩みを持ち、また、しっかりと考えた後持っている人たちがいた。私自身も広い意味で地元の人々と比較した場合非常に勉強になったと思います。

九月二日、いよいよ私たちは中国大陸へ足を踏み入れる時が来たのでした。夢にまで見た中国、船のタラップを一段一段降りるときかわいい声

たいと思っています。それが今現実で来たとき、なぜかしら故郷へ帰って来た様な気さえしました。それは我が国があまりにも中国の文化を受け入れているからです。

実際、中国をこの目で見ていくうち、少しずつ変わってきていることを知りました。風景、制度は変わっても中国の人々の暖かい心と、人なつこい性格、そして何よりも澄んだ瞳は少しも変わることはないように見えました。

私は今回の事業を通じて多くのことを学ばせていただきました。二週間にわたる集団生活の中で多くの友人が互いに助け合い、ひっぱりあつてきました。また、誠実で素直な中国の人たちに学ぶところが多分にあったと思います。船を降りてもこの感動を忘れずに、青年団を初めとする各団体、また地域の人々にも役立つような活動を続け、一人でも多くの人たちと多方面にわたる喜びや悲しみを分かちあっていきたいと思っています。

健寿大学草部教室

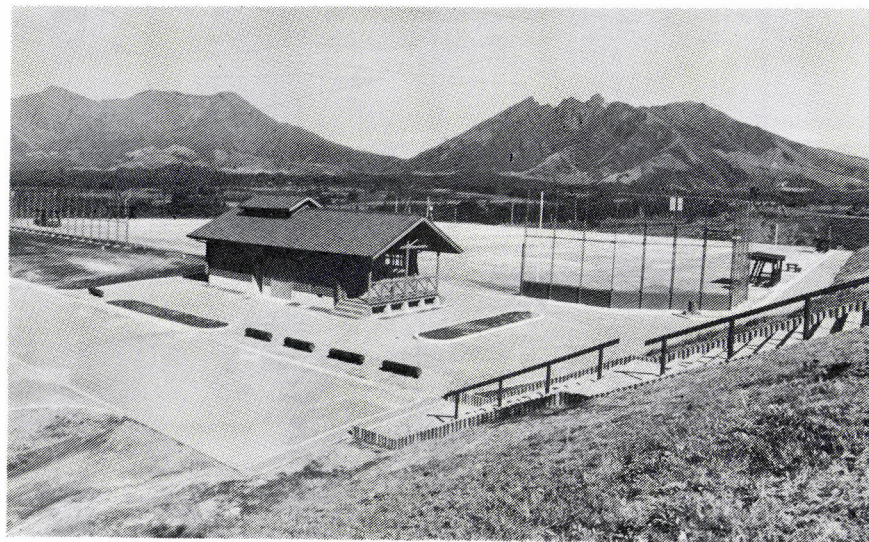
暮らしの中の俳句

仰ぎ見る夜空の星に夢を生む夕涼みダリヤの花に見とれけり
なが旅を終えし疲れや夏の宵
颯風に倒るゝ稲に胸いたむ
盆踊り近づき太鼓打つけいこ
初なすび過ぎし苦勞も忘れけり
米価などそしらぬ顔で穂がのぞく
甲子園球児の汗に涙する
あかつきに一声きこえホトトギス
雨降れば冷えて夏の足袋をはく
盆過ぎて淋しさ胸に墓まいり
颯風のそれてくれよと祈り居る
雷が光ればすぐに雨はげし
寝冷えらし痛む頭で出席する
帰る頃止んでほしき秋の雨
末孫の卵とる役夏休み

中村 西島 徹
二子石 藤 常光
工藤 金 弘
大村 誠 喜
甲斐 伯 格
佐伯 誠 喜
古沢 ケサ子
中尾 アキエ
中村 ハツ子
二子石 ケサ子
伊藤 鉄 子
幸野 ユキエ
中尾 ツタエ
堤 口 ツギ子

待望の山村広場が完成

完成した山村広場のグラウンドと管理棟



各施設に間伐材使用

野球二面、ソフトなら四面

スポーツ愛好家待望の山村広場（総合グラウンド）が完成、十月十四日に落成式と記念の町民体育祭が行われます。

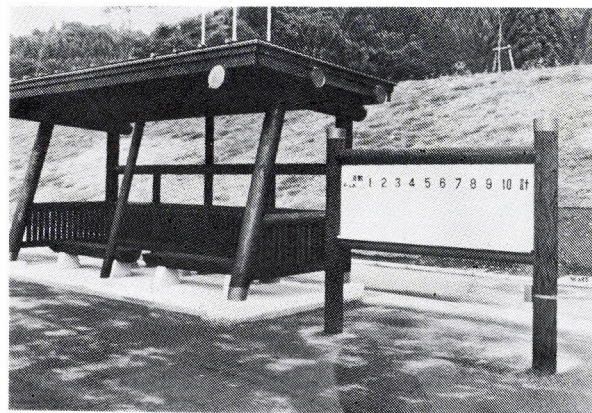
山村広場は山村林業構造改善事業で、休暇村グラウンドに隣接する、上色見・慶恩の約四万六千二百平方メートル、五十八年度から工事を進めていたものです。

国道二六五号線から取付道路に入ると、右側には阿蘇五岳が一望できる展望広場が整備されています。



国道横に立てられた看板

この施設の特徴は林業事業にふさわしく木材をふんだんに使用していることです。まず六十五平方メートルの管理棟は間伐材を使ったログハウス（丸太小屋）、グラウンドに八棟あるダッグアウトとスコアボードも木製で、丸太を使ったダッグアウトは県下ではここだけ。テニスコートに上がる二つの階段は防腐加工をした木レンガを使用、木の持つ温かさがここにも生かされています。現在、東屋と便所を建築中で十二月には完成予定、総事業費三億二千二百万円。来年度は夜間照明設備工事をするにしています。



ダッグアウトとスコアボード

草部地区にもグラウンド

草部中跡に建設 住民の熱意が実を結ぶ



出来上がった草部地区のグラウンド

山村広場が完了。

成しましたが、一足早く草部地区にも、住民の熱意が実って立派なグラウンドが完成しました。

このグラウンドは草部中学校が新築移転したために、跡地をグラウンドとして整備し、体育振興と住民の親睦の場にしようと「草部地区グラウンド建設期成会」（甲斐一誠会長）が工事を進めていた。

草部地区では中学校が移転したあと跡地を自分たちの手でグラウンドにしようという気運が高まり、昨年の十二月期成会を設立しました。期成会では工事費のねん出、工事の進め方について協議を重ね町の助成、多額の寄付、地区民の負担金などで工事のめどが立ったため、七月中旬から造成工事を始めました。保育園、小学校、中学校のPTAも樹木伐採やバックネットの移設などの奉仕作業を行い、地区あげでのグラウンド建設となりました。

いつまでもお元気で

町内九会場で敬老会

町と各校区婦人会では、九月十二日から八つの校区と「梅香苑」の九会場で敬老会を開催しました。

長い年月社会のために尽くしてこられたお年寄りの長寿を祝い、「敬老の日」にちなんで毎年催しているもので、今年は六百十人が招待されました。

上色見校区の敬老会は、九月十八日午前十一時から上色見小学校講堂で開かれ、七十四歳以上のお

引き続き祝宴に移り、お年寄りたちは婦人会が準備した料理に舌つづみを打ちながら、色見保育園

222222

広報たかもりテレホンサービス
◆町の行事予定が、いつでも気軽に聞けます。



演芸を楽しむお年寄り

親子で交通安全教室

高森園 ひまわりクラブ



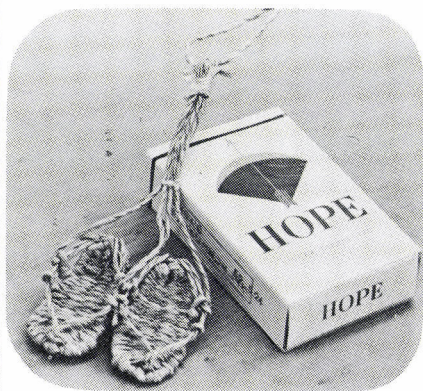
信号機を使って横断歩道の渡り方を練習する親子

高森保育園の「ひまわりクラブ」(津留明義会長 二百十八人)は九月六日、親子いっしょの交通安全教室を開きました。

この日は園児百二十二人と、お母さん四十人が参加。まずクラブリーダーの桐原映一さんが「交通安全意識の高揚を図り、子供を事故から守りましょう」とあいさつ、高森署員と、等身大のぬいぐるみに入った母親から交通安全の話聞き、グラウンドでゲームを楽しんだ後、四歳児の親子八十人は近くの交通公園で、実際に信号機を使って正しい横断歩道の渡り方を勉強しました。

ひまわりクラブは、幼児と保護者が交通安全のきまりを身につ

け、将来の立派な交通社会人をしてようと、五十六年六月に発足、



ミニわらじが評判

芹口・馬場の後藤富義さん

芹口・馬場の後藤富義さん(五七)は趣味のミニわらじ「写真」作りで近所の評判になって

います。後藤さんは毎年穴迫稲荷で行われる豊後神楽のためにわらじを作

っています。小さいのを作ってみようと、今年の冬、農作業のひまを利用して製作に取りかかりました。

最初は大きかったわらじも作るたびに小さくなり、最近の作品は縦四寸、横二寸と超ミニ。しかし、わらじが小さくなるにつれて苦労するのは材料集め、稲ワラの穂先約二十センチを準備しその中からさらに細いものを選び出すのが一仕事です。普通のわらじは一日五足ぐらいできますが、このミニわらじ二足作り上げるのは無理かもしれないという。今まで約五十足を聞きつけた近所の人や親戚にプレゼントしました。

赤い羽根共同募金

目標額は92万9千円

赤い羽根共同募金が、十月一日から始まりました。日本では昭和二十二年、赤い羽根を受領証に全国的に募金運動が始められたのが起りといわれています。毎年皆さんの温かい協力により、成果

を上げることができ、心から感謝申し上げます。

この募金による資金は、県内の各種民間社会福祉事業施設や団体に配分され、恵まれない人たちの援護のために、また各地域の福祉

毎年活発な活動を続けています。二年前には横断歩道の手前に黄色のペンキでマークを付け、幼児が左右確認を励行するよう習慣付けることで成果を上げています。今回も、シンボルマーク・ひま

わりの絵の中に「あぶない」と「まれ」と書いた標識十六本を製作、横断歩道の手前や路地からの出口などの通関路に立て、幼児を交通事故から守ることにしています。

のために役立っています。昨年、本町は目標額七十七万九千円に対し一三九・五二割の百八万六千八百九十六円を集めることができました。そのうち六十六万三千円余りの配分を受け、社会福祉事業に大きく貢献しています。募金は、街頭募金、戸別募金、学校職域募金などいろいろな方法で行われますが、この運動は押しつけや強制でなく、町民の自発的な意志に基づいて進められます。今年の本町の目標額は九十二万九千円となっております、この目標達成のため皆さんのご協力をお願いします。

なお、昨年度の配分金は、寝たきり老人、長期入院の老人、重度心身障害者の見舞金などに有効に使わせていただきました。